

Q. 貯金はいくら増えたの？

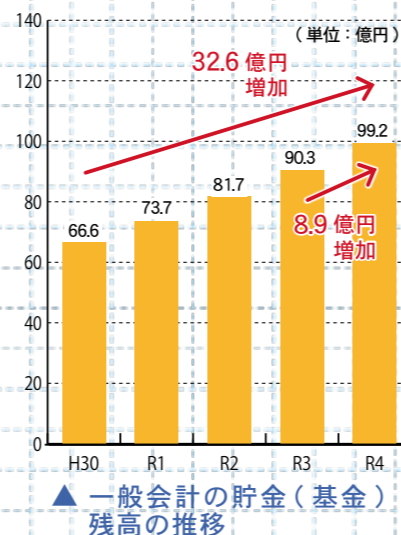
A. 貯金は **8.9 億円** 増えました

子どもの教育・子育て支援、新型コロナ対策など、特定の事業目的のために3.3億円を基金から取り崩しましたが、引き続き収入に見合った支出に取り組みました。

5年連続で貯金を増やし、公共施設の老朽化など将来の負担に備えています。

【なぜ黒字なのに貯金を取り崩すの？】

貯金は使う目的ごとに積み立てており、これを基金といいます。将来の大きな支出に備えて貯金しますが、その目的に合う事業があれば、必要に応じて対象の貯金(基金)から取り崩して使うことで、安定した財政運営を行っています。



企業会計

三田市が自ら経営する公営企業3事業の会計です。令和4年度の決算をお知らせします。

① 市民病院事業

	収益的収支(税抜)	資本的収支(税込)
収入	98億4,436万円	9億8,581万円
支出	93億45万円	14億6,841万円
差引	5億4,391万円	△4億8,260万円

収益的収支は、材料費や光熱費の高騰などによる費用の増加もあり、医業収支は若干悪化しましたが、国や県からのコロナ関係の補助金により、約5億4,391万円の純利益を計上しました。

資本的収支は、診療機能の向上を図るため手術ベッドや生理検査システムの更新を実施し、地域に安心をもたらす良質で高度な医療サービスの提供に努めました。

② 水道事業

	収益的収支(税抜)	資本的収支(税込)
収入	28億2,868万円	11億4,419万円
支出	24億1,957万円	19億2,715万円
差引	4億911万円	△7億8,296万円

収益的収支は、給水人口が減少傾向にありますが、約4億911万円の純利益を計上しました。

資本的収支は、安全な水道水を安定的に供給するため、令和4年度は水道管路の布設替工事の他、配水池防水塗装工事などの施設更新や浄水場の機器更新などを実施しました。

③ 下水道事業

	収益的収支(税抜)	資本的収支(税込)
収入	28億7,428万円	9億2,687万円
支出	26億9,569万円	14億1,495万円
差引	1億7,859万円	△4億8,808万円

収益的収支は、使用料改定や企業債支払利息の減少などにより約1億7,859万円の純利益を計上しました。

資本的収支は、適正な機能維持を図るため、中継ポンプ設備更新などを実施しました。

※いずれの事業においても、資本的収支の不足額は内部留保資金(減価償却費など現金支出を伴わない費用計上によって生じた資金)で補っています。

三田市のお財布事情 令和4年度決算見込み

TOPICS_01

特にお知らせしたいこと

※記載の決算見込みの内容は、9月の定例会市議会に提出し、予算決算常任委員会で審議されます。

令和4年度
決算

- 収支は黒字でした
- 借金は減りました
- 貯金は増えました

一般会計・特別会計

三田市に1年間でどのくらいのお金が入って、どのように使われたのかをご存じですか？

今号では、令和4年度の財政状況(決算)についてお知らせします。

なお、数字は全て端数計算して表記しています。

※決算の詳細は、市HP(右記2次元コード)や財政課窓口でご覧いただけます。

問い合わせ=財政課(市役所本庁舎3階 559-5018 FAX 563-1366)



Q. 決算はいくら黒字だったの？

A. 一般会計と特別会計*をあわせて **8.4 億円** の黒字でした

お金(財源)が不足する場合に使う貯金(財政調整基金)の取り崩しを行わず、黒字を確保しました。

会計名	歳入決算額(A)	歳出決算額(B)	差引額(C=A-B)	翌年度に繰り越すべき財源(D)	実質収支額(C-D)
一般会計	426億6,262万円	416億7,791万円	9億8,471万円	5億529万円	4億7,942万円
特別会計	212億3,211万円	208億7,173万円	3億6,038万円	0円	3億6,038万円
合計	638億9,473万円	625億4,964万円	13億4,509万円	5億529万円	8億3,980万円

*特別会計とは、対象事業が限定されている次の5つの会計のこと
①国民健康保険 ②公営墓地整備 ③駐車場 ④介護保険 ⑤後期高齢者医療

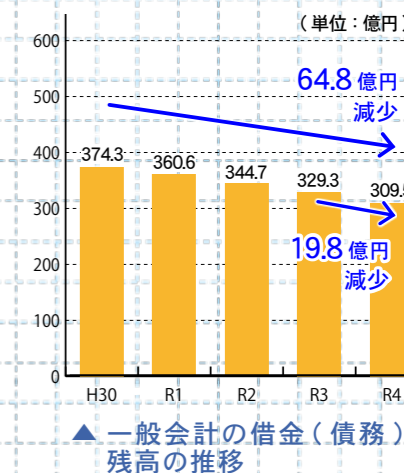
Q. 借金はいくら減ったの？

A. 借金は **19.8 億円** 減りました

小・中学校の大規模改修、消防車両の購入などのため、新たにお金を借りましたが、全体では返済が進み、借金の残高は、前年度より19.8億円、平成30年度末からは64.8億円減りました。

【なぜ借金をする必要があるの？】

- 毎年の支出額を平準化させるため
建設事業費などの大きなお金を1年で払いすぎることは難しいため、借金をすることで、支出額の平準化を図ります。
- 現在の市民と将来の市民の負担を公平にするため
今後も使う施設の費用を、現在の市民だけで負担するのではなく、将来施設を使うであろう市民にも負担してもらうため、分割で返済しています。



どんなことに使われているの？

Check! 教育費 学校教育、生涯学習、図書館の運営など

- 感染防止衛生用品などの整備（小・中学校、幼稚園など）
- 学校施設大規模改修やトイレの洋式化
- オンライン英語授業
- 小・中学校児童生徒用図書の本整備



Check! 土木費 道路・公園整備・都市計画など

- 三田駅前Cブロック地区市街地再開発の推進
- 賑わい創出のための社会実験（フラワータウンリポーンプロジェクト）



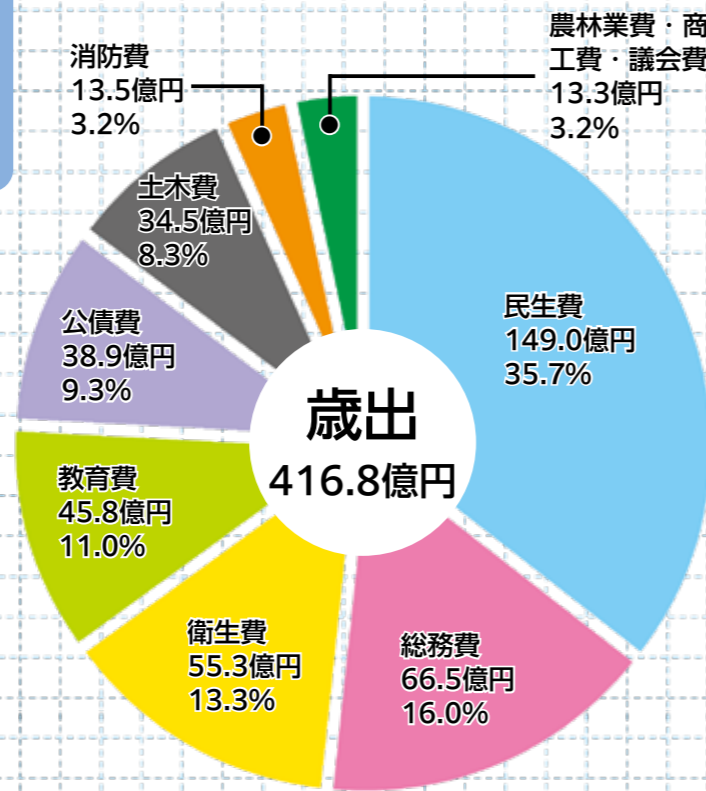
Check! 総務費 文化振興、市民活動推進、市管理事務など

- スマホ教室などのデジタル活用支援や地域情報共有アプリの導入
- オンライン手続きやキャッシュレス決済手段の拡充
- 公用車へのEV（電気自動車）導入
- オンライン移住体験ツアーや移住相談
- WEB・SNSを活用した関西圏への移住促進PR
- 避難情報複数メディア一斉送信システムの導入
- 新モビリティサービス実証実験



Check! 民生費 子ども・高齢者・障害者の福祉など

- 感染防止衛生用品などの整備（保育園、放課後児童クラブなど）
- 保育士宿舎借り上げや就職準備など環境整備に対する支援
- 家事育児支援ヘルパーの派遣（SUN だっこ応援隊）
- 介護人材確保の取り組みを支援
- 認知症予防教室や高齢者見守りシステムの実証実験
- 生活安心サポートセンターの設置



- 衛生費** 市民の健康づくり、ごみの収集、生活排水対策など
- 公債費** 市債（借金）の返済
- 消防費** 消防・救急など
- 農林業費** 農林業の振興、農業基盤整備など
- 商工費** 商工業やツーリズムの振興
- 議会費** 議会の運営など

416.8億円(前年度422.9億円)

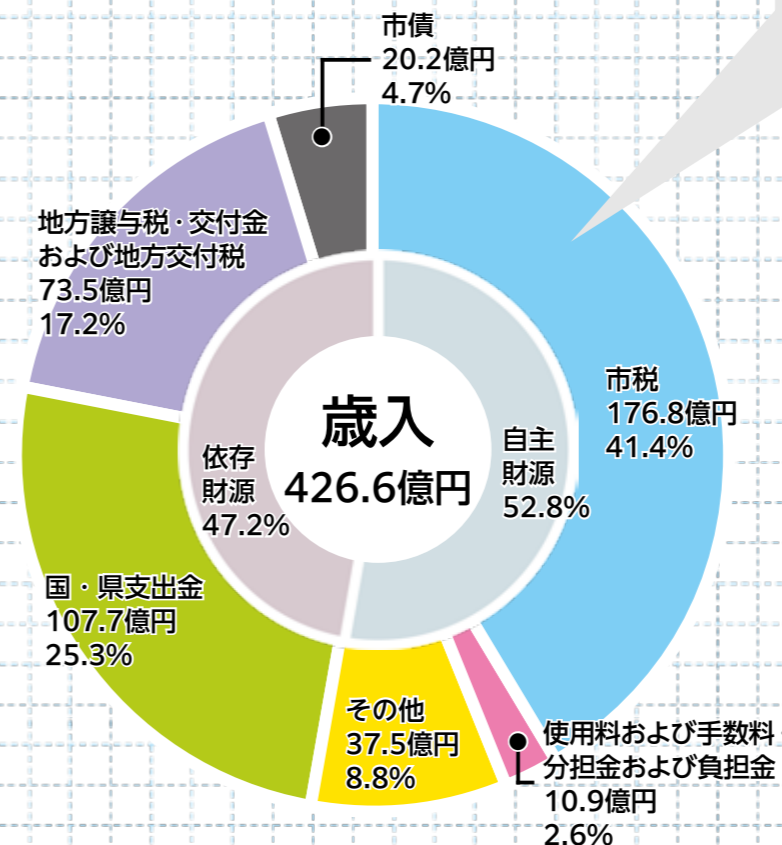
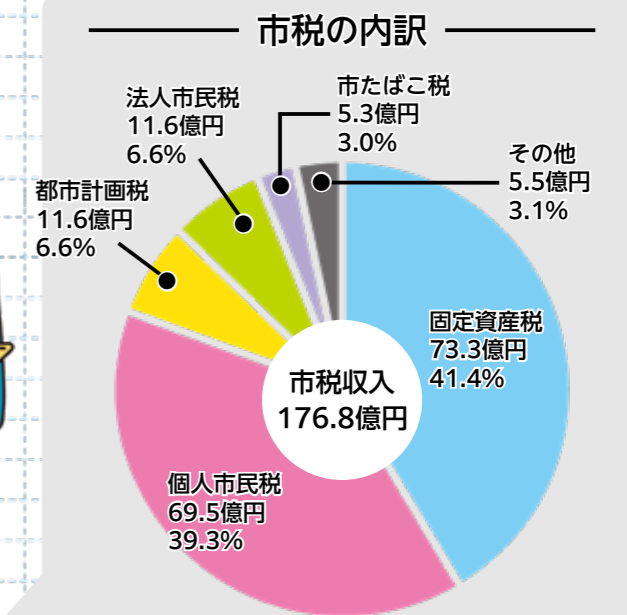
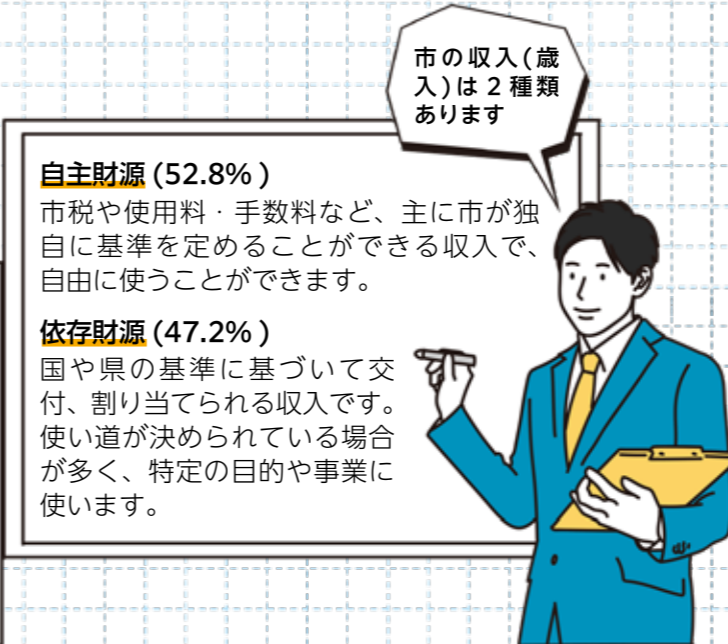
三田市のお財布の中身を見てみよう

令和4年度の一般会計の決算状況は、歳入総額426.6億円、歳出総額416.8億円で、翌年度へ繰り越すべき財源を除いた実質収支の額は4.8億円となりました。

三田市では、行政運営のために毎年多くのお金を収入し、また多くのお金を使っています。

ここでは、歳入・歳出がどのような中身になっているのか、一つずつ見ていきましょう。

どんな収入があるの？



- 【自主財源】**
 - 市税 市民のみなさんが市に納めた税金
 - 使用料および手数料・分担金および負担金 公共施設の利用料金、証明書の発行手数料など
 - その他 前年度から繰り越したお金、預金利子や寄附金、基金からの繰入金など
- 【依存財源】**
 - 国・県支出金 市の事業に対し、国や県から交付されたお金
 - 地方譲与税・交付金および地方交付税 国税や県税などから譲与・交付されたお金
 - 市債 国や金融機関などから借り入れたお金

426.6億円(前年度441.0億円)